

- 1 名称 第15回キッズビジネスタウンすわ
- 2 目的 「子どもたちがつくる、子どもたちの街」を合言葉に、小学校5・6年生の児童が市民となり、皆で働き・学び・遊ぶことで、共に協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学び、子供たちのキャリア意識の醸成に役立てる。
「キッズビジネスタウン®すわ」では、次の6つを楽しみながら体験し、学ぶことができるように計画している。
 - (1) 働くことの楽しさ、喜び、そして大切さを知る。
 - (2) ほかに子どもたちと協調して仕事をし、相手を思いやる気持ちを育む
 - (3) 手作業製品のつくり方を知り、物を大切にすることを育む
 - (4) 商品流通など、ビジネスの仕組みや、金銭にかかわる社会の仕組み、ビジネスに必要な知識・技術の基礎を学ぶ
 - (5) 職業の種類、その職業への適性などを学ぶ
 - (6) 予測していなかった問題に対応する
- 3 会場 諏訪実業高等学校
- 4 日時 令和4年10月22日(土)・23日(日)
午前9時30分～午後3時30分まで
- 5 参加対象 諏訪市・岡谷市・茅野市・下諏訪町の小学5・6年生
- 6 参加人数 91人(1日目 45人、2日目 46人)
- 7 運営 諏訪実業高等学校 商業科・会計情報科生徒(代表:濱 希美)
マネージャー 21名(3年課題研究キッズビジネスタウン講座)
校内スタッフ 50名(1・2学年商業科・会計情報科生徒)
担当教員:商業科 教諭 服田洋介・児玉澄香
- 8 後援 諏訪市教育委員会、茅野市教育委員会、下諏訪町教育委員会、岡谷市教育委員会
- 9 概要
 - (1) キッズビジネスタウンとは
「子どもたちがつくる、子どもたちの街」を合言葉に、小学生が市民となり、皆で働き・学び・遊ぶことで、共に協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ。
高校生は、小学生のお手伝いをし、街の運営をサポートする。
 - (2) 仕組み
以下の流れで小学生の活動を行った。
①受付で登録 → ② 仕事探し → ③ 就職(仕事をする) → ④ 退職(仕事を辞める) → ⑤ 給料をもらう → ⑥ お買い物
②から⑥を繰り返す。
 - (3) 仕事コーナー
今年度設置した仕事コーナーは以下のとおりである。

- 公共分野 ～ ハローワーク、市役所&銀行、警察
- 製造分野 ～ アクセサリー、スライム
- サービス ～ 医者、花屋、写真館、デパート
- 学び分野 ～ 事務

10 実施内容

(1) 対象児童の学年・人数

5・6年生を対象として、社会の仕組みについて学んでもらったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、密を避けるため参加人数を減らした。昼食以外の飲食を全面的に禁止した。

(2) 街の仕組みと目的

前述の目的にある通り、「体験を通し、社会の仕組みを学ぶ」

(3) 仕事コーナーの設置

仕事コーナーは、昨年度のコーナーを参考に各グループに分かれ、小学生に楽しんでもらえるコーナーを考えてもらった。各グループで出た案を全体で共有し、取捨選択しながら新たにスライム・医者・事務の3種類のコーナーを追加し、合計10種のコーナーに絞った。

ハローワーク・市役所&銀行・警察・アクセサリー・花屋・写真
デパート・スライム・医者・事務

(4) 高校生の学び

・ハローワーク

小学生の仕事案内・仕事紹介・退職手続き

・市役所&銀行

市役所・・・住民税及び環境税納付受付、ご当地クイズ
銀行・・・カリン（通貨）の管理、証券取引

・警察

盗難事件の模擬捜査、警察に関するクイズ

・アクセサリー

花ビーズリング製造、ミサンガ製造

・花屋

ハーバリウム製造、花束制作

・写真

フォトスポット制作、撮影、写真のデコレーション

・デパート

商品販売、接客、品出し

・スライム

スライム製造

・医者

身長測定、視力検査、医療に関するクイズ

・事務

オリジナル名刺作成、名刺交換マナー講習

1 1 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 事前に参加する保護者の方の承諾をとり、あわせて参加する小学生の健康状態の確認を、健康チェックカードなどを利用して行った。当日は受付にて健康チェックをした。
- (2) 1コーナーの定員を最大8名とし、密集しないようにした。
- (3) 当日の説明会は全体では行わず、コーナーごと教室に分散して行った。
- (4) 活動中はマスクを着用させ、仕事がかわるごとに手洗い・消毒を行った。
- (5) 会場は常時窓を開けて実施した。
- (6) 製造での活動は基本的に個人で行い、高校生がサポートした。使用した道具については、使用後に毎回消毒を行った。
- (7) 昼食は教室毎に分散させ指定した席で食べさせた。また、使用後は高校生が清掃、消毒を行った。
- (8) 前日に会場全体の清掃、必要個所の消毒を行った。また、1日目終了後も会場全体の清掃、必要個所の消毒を行った。なお、必要個所の消毒は開場中こまめに実施した。

1 2 成果と課題

ウィズコロナとなって3回目のキッズタウンとなったが、感染対策（マスクの着用・手指消毒・検温・換気等）が生徒のみならず、体験する児童もきちんと順守することができていた。

デパート体験	事務体験
	
アクセサリ体験	ハローワーク体験
	

(1) 成果について

体験してくれた小学生たちは体験中に笑顔が見える、高校生の説明を熱心に聞く、黙々と体験作業に取り組むなど、意欲的に活動に取り組むことができていた。特定の体験を気に入り、何回も体験に来る児童もいた。働くことの楽しさを感じ取ってくれたのだと思う。働く、給与をもらう、消費・納付する、また働くという、お金や経済のサイクルを体験する中で、労働の意義や意欲を学ぶことができた。

高校生側としては、普段あまり接する機会のない小学生を相手にするという点で、事前に様々なシミュレーションをして臨んだ。そのおかげできちんとコミュニケーションを取ることができ、比較的スムーズに体験を行ってもらうことができた。事務体験では名刺の印刷時、写真体験では写真の印刷時に児童が待つ時間が長くなり、手持ち無沙汰にさせてしまうなど、実際に体験活動を行ってもらう中で、それぞれの体験ごとに改善しなければいけない点が発生した。前者は先に名刺交換のマナー学習を行う、後者はデコレーションの準備をする等、体験することがなくて困るという時間を極力なくすように対応することができた。製造体験においてはものを作って終わりではなく、流通について理解させることも考えた。製造物を販売部署まで配送する作業も行うことで、卸売業や運送業の役割を理解することができた。また、すべてのコーナーを体験してもらうためにスタンプラリーを導入した。スタンプをもらうためにすべての体験を回る児童が多くみられ、効果があったと感じる。

(2) 課題について

コロナウイルス感染対策と受け入れ態勢の関係で、すべてのコーナーの1回の体験人数を上限8名とした。ハローワークがきちんと人数管理を行い、上限人数を守ることができた。しかし、コーナーによっては1つ1つの作業に時間がかかり、説明や補助をする高校生が手一杯になってしまう場面もみられた。上限人数を一律で決めるのではなく、作業量に差があるのでコーナーごとに上限人数を変更すればよかった。また、体験時間は児童が個々に決められる方式をとっていたので体験時間に長短があった。長時間体験している児童の対応と来たばかりの児童の対応と両方を見なければいけない場面があり、苦慮する様子があった。1回の体験時間にも上限をつければよかった。

前述したとおり事前シミュレーションをしっかりと行って臨んだので、基本的にはきちんと対処できた。しかし、児童の個々の特性に合わせた対応や顧客対応に苦慮している児童のサポートに人員を割かれることがあり、説明や指示をきちんと理解させるのが難しい場面があった。また、体験する児童の回転において、基本的に10分～20分程度で次の体験に向かう児童が多かったが、一部の児童がほかの体験に行かず長時間同じ体験を続けるということがあった。気に入ってくれたのはよいが、他の児童の体験の妨げになる可能性があったため、退職を促した。上記にも記載したが、制限時間を設けることも考える必要があるかもしれない。

近年参加人数が減少してきている。HPや公式SNSでの広報のほか、岡谷市・下諏訪町・諏訪市・茅野市の小学校へ案内文の配布を行っているが、PR方法や範囲、対象児童など、参加人数を増加させるための対策を取らなければならない。